

京都芸術劇場ニュースレター



2016年1月30日(土) 14:00

春秋座—能と狂言 能『道成寺』 狂言『鐘』

『道成寺』の「鐘」は、舞台装置の役割を最小限に切り詰めた能という演劇の中では、全く例外的といってよい重要性をもって舞台に出現します。冒頭で狂言方に担がれた「釣鐘」が運び込まれ、天井に設えられた滑車に、長い竿の先に付いた鉤で綱を通して吊り上げられます。

この鐘の下で、「乱拍子」というシテ方と小鼓方の息詰まる舞が展開しますが——シテはほとんど動かず小鼓の掛け声で、つと爪先を上げたり、踵を浮かしたりするだけだと言ってもよい「不動性の舞」とでも呼ぶべき前段から、笛、大鼓も加わった「急の舞」の目くるめくような舞によって、シテは天井から落下する「鐘」の中に姿を消します。

演じる側だけではなく観る側にとっても「能の極限状況」とでも言ったらよい体験が出来る前段から、ワキの僧が釣鐘の謂れを語るあいだに、シテは鐘の中で装束も面も変え、特に今回のように「赤頭」の「小書き」(特殊演出)が付くと鬘まで変えて、鐘が引き上げられると嫉妬の執心によってなった「蛇体」の本性を現します。この「後シテ」が僧たちの祈りと闘い、「柱巻き」と呼ばれるシテ柱を使った苦悶の姿を見せ、最後は「日高川」に飛び込んで消えるのです。この後は、冒頭と同じく狂言方が長い竿を使って釣鐘の綱を外し、その竿に通した「鐘」を運び去って終わります。

日本の伝統芸能の中でも、後世に様々なジャンルの「道成寺物」という系譜を産んだ能の『道成寺』。それは全ての能がそうであるように、各パートに優れた演者を得なければ、ただ、退屈の塊のようなものになりかねません。シテや小鼓を始めとする囃子方は言うまでもありませんが、前段の「乱拍子・急の舞」の間に、瞬きもせず不動の姿を保つワキも、釣鐘再建の供養と「女人禁制」である旨をふれる狂言方、そして言うまでもなく危険を伴う「釣鐘」を振り落とし、吊り上げる「鐘後見」に到るまで、各パートが全力を挙げ、集中の息を合わせてはじめて「危険」と背中合わせのこの能を他に類のない見事なパフォーマンスとして立ち上げることが出来るのです。

渡邊守章 演出家・京都造形芸術大学客員教授

特集

春秋座—能と狂言

— 1・2P

歌劇「セヴィリアの理髪師」全2幕

— 3P

藤間勘十郎 春秋座 花形舞踊公演／演じる高校生

— 4P

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2016 SPRING

— 5P

シリーズ「春秋座一能と狂言」

1月30日(土) 14:00

●公演情報の詳細は
スケジュール一覧をご覧ください。

平成28年は京都芸術劇場開場15周年の節目の年でもあり、「春秋座一能と狂言」も今年で7回目を迎えます。今までの能、狂言上演の歴史を振り返り、さらなる実験を目指してまいります。

京都芸術劇場「春秋座」は、言うまでもなく「歌舞伎劇場」で、能狂言のための劇場ではありません。そういう劇場で能を上演するときには、舞台上に「能舞台」をくむ、というやり方が普通ですが、これでは能の演技も音楽も、向こうのほうへ後退してしまい、能舞台で味わう程度の臨場感さえ味わえません。

平成20年に、舞台芸術研究センター所長を仰せつかって、最初に企画上演したのは、すでに故人となった観世榮夫師と作った創作能『薔薇の名——長谷寺の牡丹』で、シテを観世鏡之丞師にお願いして、劇詩人ポール・クローデルの中国福州での不倫の恋の象徴である薔薇の花と、日本駐在中に訪れた奈良長谷寺の牡丹とが妖艶に重なる『薔薇の名——長谷寺の牡丹』でした。

このことを書いておくのは、歌舞伎舞台で能を演じる時の舞台空間の設え、とくに「照明」の問題を、この創作能を機に解決する端緒を見つけたからです。照明プランナーの服部基氏は、世界的にも活躍している現代の照明家として、最も優れた存在であり、幸いな事に私も、1993年の銀座セゾン劇場における『ロレンザッチョ』以来の共同作業を続けてきました。

服部氏と苦心したのは、一見フラットに見えるが、実は光線の生み出す空間は複雑であり、かつ、能面を始めとするシテの「こしらえ」が、無用で邪魔な影など出さずに浮き出てくるような「舞台照明」を考案することでした。幸い、回を重ねるごとに、それは安定した技法となり、事情を知らない人にはただのフラットな照明かとおもわれるほどに、己を消して対象を活かすことに成功しました。

舞台芸術の最も基本的ではあるが、ともすれば軽視されがちな「照明」の話から始めたのは、それが、シテを始め舞台上

の演者を引き立てる上に、決定的だからでもあります。しかしそれが演者の演技の邪魔になっては困ります。これが、あの小さな二つの穴しか「空いた部分」のない「能面」という、残酷な「仕掛け」と、それをつけて、ほとんど「見えない」状態で行動し、舞を舞うシテを助ける手立てとならなければなりません。そのためには、シテ方のほうでも、特に「創作能」の場合には、十回以上の稽古をするという「贅沢」を、敢えて行ったのですが、そのときから始めて、すでに六回の「春秋座一能と狂言」を催すことが出来ました。『船弁慶』のようなポピュラーな曲も、「怨霊物」の現在時とでも言ったらよい清冽な効果を挙げましたし、また『山姥』のような老女物の大曲も、宇宙的な詩的空間の広がりや、極めて現代的なメタシアター的な構造の上に展開するという、スリリングな実験が出来ました。

「春秋座一能と狂言」の枠には組み込んでいませんが、狂言のみの会も二度催しており、特に「東西狂言立ち合い」と題して、東の野村家、西の茂山家の、円熟した芸と活きのよいパフォーマンスとを、二つながら比べて観賞することが出来るという、真に贅沢な企画も致しました。なかでも、東は野村萬斎、西は茂山逸平による「三番叟(三)立ち合い」は、めったに見られるものでないばかりではなく、実にスリルと興奮に満ちた舞台でした。狂言に関しては、常に野村万作師が舞台に位を持たせてくださっていることも忘れることは出来ません。

そして最後になりますが、世阿弥生誕六百五十年祭を記念した一昨年に、有史以来初めて、観世宗家清和師に、歌舞伎の舞台で『翁』を舞っていただくという、「歴史に残る企画」を実現できたことも、参加者全員の心に、深い感動を生んだものでした。それも、役者、演奏家、そして広い意味での「裏方」の、心を合わせた熱意と作業があつたればこそと、企画者として改めて深い感謝の意を現す次第であります。

企画・監修 渡邊守章

「春秋座一能と狂言」 第一回～七回

※全ての回にプレトークあり。

第一回 2009年11月28日(土)

狂言「昆布売」 能「松風」

第二回 2011年2月6日(日)

狂言「舟渡聲」 能「邯鄲」

第三回 2012年2月18日(土)

狂言「末広かり」 能「葵上」

第四回 2013年2月2日(土)

狂言「磁石」 能「融」

第五回 2014年2月2日(日)

狂言「棒縛」 能「船弁慶」

第六回 2015年1月31日(土)

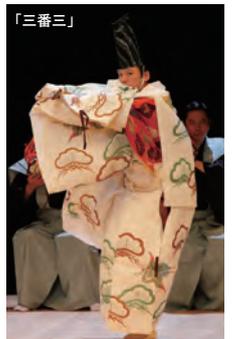
狂言「木六駄」 能「山姥」

第七回 2016年1月30日(土) 14時開演

狂言「鐘の音」 能「道成寺」



写真・清水俊洋



歌劇「セヴィリアの理髪師」全2幕

12月12日(土)、13日(日) 14:00

G. ロッシーニ作曲(イタリア語原語上演・日本語字幕付き)

●公演情報の詳細はスケジュール一覧をご覧ください。

恒例、春秋座オペラは軽快なドタバタ喜劇 ロッシーニの超人気作『セヴィリアの理髪師』!

セヴィリアの理髪師とは

ロッシーニの最高傑作といわれるこの作品は、1775年にフランスの劇作家ポーマルシェが書いた『セヴィリアの理髪師、あるいは無益な用心』という喜劇が原作です。同年、パリのコメディ・フランセーズで上演され評判となったことから、その後『フィガロの結婚』『罪ある女』を書き、三部作となりました。

オペラとしての初演は1816年、『アルマヴィーヴァ、あるいは無益な用心』というタイトルでローマのアルジェンティーナ劇場で上演されました。

生き生きとした主人公たちが観る者をハラハラドキドキさせながら、最終的にはハッピーエンドとなる作品は、フランス革命前後の人々の心情によく沿い、大変な評判となりました。また、ロッシーニの曲もコロラトゥーラの優雅さ、舌がもつれんばかりの早口で歌うパルランドの痛快さ、きらびやかで繊細なアンサンブルなど、イタリア・オペラならではの旋律の美しさ、楽しさがある作品です。

作品の時代と理髪師

タイトルを読んで何故、理髪師が? とお思いになるのではないのでしょうか。これは理髪師という職業が古くから人々の生活に密着し、とくに近世では王侯貴族との関係が深いことを物語っています。

古代アテネでは髪や髭の手入れとマッサージをする床屋があり、後のアレキサンダー大王はお抱えの理髪師がいたとか。中世になると理髪師は僧院や協会のご用達となり、さらに刃物を扱うことから切開や骨折手術など外科的治療を請け負うようになります。また王侯貴族には欠かせないカツラの手入れやデザインも請け負うようにもなりました。

そうして様々な人々のところに入り出していた理髪師は、さぞかし面白いものを見聞かし、ちょっとした用事を頼まれていたに違いありません。

『俺は街の何でも屋 Largo al factotum』 (第1幕 フィガロ登場の場面で歌うアリア)

さあ、道を空けてくれ
この街の何でも屋だぜ

フィガロ、フィガロ……って
ここにありますよ、ここですって!

腕利きの床屋にとって
最高の人生 無上の喜び
本当に俺は幸せ者だ

なんて慌ただしいんだ
客で溢れてる
どうか順番に頼みますよ!

準備は万端 日夜辺りを駆け回る
床屋にとってこれ以上の幸せはないさ

だから私はここにありますって!

カミソリにクシ そしてハサミ
どれも俺様の命ずるままだ

準備はいつも完璧さ
俺は街の何でも屋だぜ

仕事のお相手は美しいお嬢さんに騎士
老若男女の誰もが俺様をご用命さ

さあ!カツラを急げ 髭も!
恋文だって運ぶよ!



あらすじ

町一番の美人ロジーナに一目惚れをした青年アルマヴィーヴァ伯爵は、何とか彼女に近づこうとしますが財産目当ての後見人バルトロの警戒が厳しく、なかなかうまくいきません。そこで町の何でも屋フィガロに助けを求めます。フィガロのあの手この手のアイデアでバルトロ家に侵入するもそのたびに大混乱を招きます。ついに伯爵はロジーナに近づきその思いを伝えようと思いますが、これまた大混乱。

とうとうバルトロはロジーナと結婚するために公証人を手配してしまいます。

嵐の過ぎ去った夜、いよいよ公証人がやってきて…。

フィガロの機転でピンチを脱し、最後はハッピーエンドを迎えます。



伯爵

若い独身貴族。ロジーナに一目惚れし、セヴィリアまで会いに来る。



ロジーナ

親の遺産を継ぎ、後見人の叔父バルトロの家に身を寄せている。



バルトロ医師

ロジーナを自分の妻にしようと画策している。



フィガロ

(町の何でも屋)

バルトロ家には髭剃りからその他の雑事でフリーパス。



バジリオ

(ロジーナの音楽教師)

バルトロに伯爵の悪い噂を広めようと進注する。



ベルタ

(バルトロ家の家政婦)

バルトロ家の騒動を覗き見てうんざりしている。

公演監督: 松山郁夫 指揮: 奥村哲也 演出: 今井伸昭

| | キャスト | |
|-----------------------|----------|-------|
| | 12日 | 13日 |
| アルマヴィーヴァ伯爵 | 竹内直紀 | 中川正崇 |
| バルトロ | 松山いくお | 萩原次己 |
| ロジーナ | 川越塔子 | 郷家暁子 |
| フィガロ | 鶴川勝也 | 藤山仁志 |
| バジリオ | 片桐直樹 | 石原祐介 |
| フィオレッツ | 砂田麗央(両日) | |
| アンブロージオ | 萩原次己 | 松山いくお |
| ベルタ | 大森花 | 林まどか |
| 隊長 | 内山建人(両日) | |
| 合唱: ミラマーレ男声合唱団 | | |
| Ten.1: 薦谷明夫・喜納和・大淵基丘 | | |
| Ten.2: 浦方郷成・古川昌樹・廣津大介 | | |
| Bari: 砂田麗央・内山建人・大西凌 | | |
| 演奏: ミラマーレ室内アンサンブル | | |



藤間勘十郎 春秋座 花形舞踊公演

2月27日(土) 11:00/15:30

◎公演情報の詳細はスケジュール一覧をご覧ください。

花形舞踊家と豪華歌舞伎役者の華麗なる夢の競演

宗家藤間流八世宗家・藤間勘十郎が、本劇場芸術監督・市川猿之助と、上方新星の若手女方で吾妻流七代目家元でもある中村壺太郎、五代目中村富十郎の長男で躍進目覚しい初代中村鷹之資、片岡我當の部屋で進境著しい上村吉太郎に、京都を代表する舞踊家若柳流五世宗家家元・若柳吉蔵と花柳流・若柳流の若手ホープたち、宗家藤間流関西支部の門弟たちが一堂に！珠玉の演目がずらりと揃った京都初の花形舞踊をぜひお見逃しなく！！

御挨拶

宗家藤間流 八世宗家 藤間勘十郎

この度、『藤間勘十郎 花形舞踊公演』を京都芸術劇場春秋座で開催させていただき運びとなりました。今回皆様に御覧頂きます演目は、古典の名作から私の書きました新作まで、多くの趣向を織り混ぜまして、その全てを素踊りにて御届け致します。共演者には歌舞伎界よりこの春秋座の芸術監督であり私の同志ともいえる市川猿之助丈を始め、子供の頃より一緒に創作活動や同じ舞台を勤めてきた中村壺太郎丈、私が御世話になった故中村富十郎丈の御子息中村鷹之資丈。舞踊界では同志若柳吉蔵様、花柳流・若柳流の若手ホープの方々、宗家藤間流関西支部の門弟達。今現在の私の持てる全てを、この舞踊公演に注ぎます。祖父六世勘十郎も愛したこの京都の地で私の初の舞踊公演、今の藤間勘十郎の全てを舞台上で表現します。



市川猿之助



中村壺太郎



中村鷹之資



上村吉太郎



藤間勘十郎



若柳佐禪子



花柳 凜



若柳吉蔵

| | | | |
|----------------------------|----------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------|
| 〔午後3時30分開演の部〕 | | 〔午前11時開演の部〕 | |
| 一、二人枕久 梶屋久兵衛 松山大夫 | 二、三社祭 善玉 悪玉 | 一、蜘蛛の拍子舞 源頼光 確井貞光 流星 | 二、流 星 牽牛 織女 |
| 長唄囃子連中 藤 間勘十郎 中 村壺太郎 | 清元連中 市 川猿之助 藤 間勘十郎 | 長唄囃子連中 藤 間勘十郎 上 村吉太郎 中 村壺太郎 | 清元連中 若 柳吉蔵 若 柳佐禪子 藤 間勘十郎 |
| 一、連獅子 親獅子 仔獅子 | 二、浮世草紙湯殿敷 風呂屋三助 後 家 田舎者 | 三番叟 千 歳 | 三番叟 千 歳 |
| 長唄囃子連中 藤 間勘十郎 中 村鷹之資 | 長唄連中 藤 間勘十郎 藤 間勘十郎 | 川猿之助 藤 間勘十郎 | 川猿之助 藤 間勘十郎 |

高校演劇コンクール近畿大会優秀校
第15回「春秋座」招待公演

演じる高校生

2月7日(日) 14:00

◎公演情報の詳細はスケジュール一覧をご覧ください。

12月に開催される高校演劇コンクール近畿大会の優秀校2校を春秋座の本格的な舞台に招待し、作品を上演する春秋座恒例企画です。春秋座の柿落し以来、毎年開催し今年度で15回目を迎えます。

今年は何の高校が春秋座の舞台に立ち、どんな作品を上演するのか。

ご期待下さい！

出場校は2015年12月27日に決定！



立命館高等学校



大阪府立緑冠高等学校

★昨年出演の大阪府立緑冠高等学校は全国大会にて優秀賞を受賞しました。これで近畿代表校は3年連続最優秀賞・優秀賞受賞！

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2016 SPRING

2010年秋に誕生した、京都初の国際舞台芸術フェスティバル「KYOTO EXPERIMENT」が、2016年3月5日ー3月27日の間、ふたたび京都にたち上がります。創造的なポテンシャルに溢れたこの京都で、世界各地から新作も含めた最先端の11作品を紹介。

春秋座では今年も2作品を上演いたします。

大駱駝艦 天賦典式「ムシノホシ」

1972年に創設された鷹赤児が主宰する舞踏集団「大駱駝艦」。その様式を天賦典式（てんぷてんしき：この世に生まれ入ったことこそ大いなる才能とす）と名付け、常に忘れ去られた「身振り・手振り」を採集、構築し数多くの作品を国内外で上演している。

2014年に世田谷パブリックシアターで初演された今作品は、地球上の多様な環境において自らを変化し続けながら生き延びてきた「ムシ」を、宇宙からのメッセージを受け止めている生物として捉え

〔振舞・演出〕 鷹赤児

〔音楽〕 土井啓輔／ジェフ・ミルズ

〔衣裳〕 堂本教子

〔美術〕 安部田保彦

た作品。音楽は尺八演奏家の土井啓輔とデトロイト・テクノ先駆者のひとりジェフ・ミルズが担当。

大駱駝艦の主宰者であり振付・演出を行う、鷹赤児独自の空想・妄想は止まることなく、未だ解明出来ないことが多々ある「ムシ」の世界へと入って行く。

我々が生き残るためには「ムシ」の指令に耳を傾けなければならない！

鷹赤児のファンタジーの扉が、今開かれる！

3月16日(水) 19:00 / 17日(木) 15:00

●公演情報の詳細はスケジュール一覧をご覧ください。



Photo: Hiroyuki Kawashima

ボリス・シャルマツツ／ ミュゼ・ドウ・ラ・ダンス 「喰う」

ボリス・シャルマツツは、フランス・レンヌ国立振付センターの芸術監督であり自身のダンスカンパニー「ミュゼ・ドウ・ラ・ダンス」で様々な作品を発表し、世界中で賞賛を浴びてきた振付家です。

新作「Levée des conflits」（争いを起こす）で、無限に至る「身振り」のカーンを表現することで代表作のひとつとし、アヴィニオン演劇祭で委嘱された「enfant」（こども）では成人のダンサーだけでなく、子供たちの身体を扱うなどダンスをある種の固定された制約のもとに置くことで可能性の領域を再定義してきました。

2014年9月ルールトリエンナーレ(ドイツ)初演の本作(原題「manger」／仏語で“食べる”という意味)では、その重心を敢えてずらす試みを行っています。振付の媒介として“口”をメタファーとして用い、身体にまつわる様々な一般

的な了解を再定義。学生との食にまつわるディスカッションが着想のひとつでもあったことから飢餓、遺伝子操作された作物、ダイエットやアレルギーなど、我々

3月26日(土) 17:00 / 27日(日) 14:00

●公演情報の詳細はスケジュール一覧をご覧ください。

〔振付〕 ボリス・シャルマツツ

が生きる現代の社会において様々なかたちでひそむ、食べること／消化することに関する問題を射程に入れた問いかけでもあります。

Photo: Benjamin Boar



ロッシーニはどんな人だったか？

ロッシーニの音楽にはなじみがあるけれど、彼の生没年までは知らないという人に尋ねてみるとする。「彼はモーツァルトかベートーヴェンか、はたまたシューベルトか、誰の同時代人だと思いますか？」と。間違いなくほぼすべての人が、モーツァルトと答えるであろう。かくいう私も長い間、実はそう思い込んでいた。あの軽快で優美で透明な音楽、苦悩だとか格闘だとか情念のかけらも感じさせない端正な貴族趣味。あれは典型的な18世紀の精神であって、よもやベートーヴェンの汗臭い人間主義、いわんや19世紀ロマン派の苦悩などとは、何のゆかりもない音楽であるに違いない——そう思っていた。ところが……実際のところロッシーニは1792年生まれであり、つまり彼はモーツァルトの没(1791年)より後に生を受けた人であって、1770

年生まれのベートーヴェンよりさらに世代は後、つまり1797年生まれのシューベルトとだいたい同じ時代の作曲家なのである！

ロッシーニは典型的な王政復古の時代の人であった。王政復古とはつまり、ナポレオンが失脚して、1814/15年のウィーン会議(メッテルニヒが活躍した)で各国の体制を再びフランス革命/ナポレオン以前の安定した王政に戻すことが話し合われ、そして動乱の嵐がおさまった安寧と、「何もかもが再びもとに戻ってしまった」という軽い幻滅が、人々の心を支配し始めた、そんな時代である。

ロッシーニは喜劇が得意だった。それもモーツァルトのような、深いメランコリーを秘めた喜劇ではない。とことん快活な笑いにロッシーニは本領を発揮する。ドライ・シャンパンのよう

に一瞬で消える、たわいなくも心地よい笑い。それが彼の真骨頂だ。人生を笑え！理想を追い求めても幻滅するだけ、ばかばかしさこそ人生の神髄さ！ロッシーニの喜劇の上品なたわいなさには、どこかこうした大人の達観が隠れている気がする。あの無邪気な冗談の輝きに、ときどき私が涙してしまうのは、そのせいだろう。

岡田暁生

京都大学人文科学研究所教授

1960年京都市生まれ。大阪大学大学院博士課程単位取得退学、大阪大学文学部助手、神戸大学発達科学部助教授を経て、現職。文学博士。『オペラの運命』(中公新書・2001年度サントリー学芸賞受賞)、『西洋音楽史』(同・2005年)、『ピアニストになりたい!』(春秋社・2008年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞)、『音楽の聴き方』(中公新書・2009年第19回吉田秀和賞受賞)ほか、著書多数。

勘十郎の飽くなき挑戦

二年前の話だが、初夏の一日、大阪の国立文楽劇場で藤間勘十郎が関西で初めてのリサイタルを開いた。それだけでも十分、話題性はあったが、歌舞伎ゆかりの、それも曲趣も役柄も全く違う演目四本に、すべて素踊りで挑戦したのである。

芝居好きなら歌右衛門や玉三郎の絢爛、艶やかな傾城姿が目には浮かぶ『阿古屋』。勘十郎は薄茶の着付、袴に、紫の薄衣姿でひとり舞台上に立った。歌舞伎の女形と同じように琴、三味線、胡弓の三曲を自ら奏でると、景清に寄せる遊君の熱い思いがひそやかに伝わってくる。花道でキマるところは傾城の風格をものぞかせた。

西川右近らが特別出演した『六歌仙』では遍照、文屋、業平、お梶、小野小町と、立役、女形の五役を鮮やかに踊り分け、能楽師片山九郎右衛門とのコ

ラボで『大蛇退治』をダイナミックに。『うかれ坊主』以外、どれもが初の試みという意欲あふれる舞台に観客は圧倒されたものだ。

見ようによっては、舞踊家から歌舞伎役者への果たし状とも受け取れる大胆な催しだった。事前の取材で「衣裳をつけて踊るのなら役者にはかなわない。祖父(六世勘十郎)が築き上げた、役の核心のみで踊る素踊りが究極の目標」と、勘十郎は語っている。自身の体ひとつですべてを表現し、「そぎ落としの芸」といわれる素踊りに、将来ともこだわり続けたいという。

ただ、素踊りの魅力、面白さを広く今の人たちに理解してもらうのはなかなか難しい。そこにエンターテインメント性を盛り込むことで新たな観客の開拓につなぐ。先のリサイタルにはそんな企画意図も込められていた。

宗家藤間流の代々が担ってきた歌舞伎の振付に加え、八世宗家勘十郎は自らプロデューサーとなり同世代の歌舞伎役者や舞踊家と共演して真剣勝負の舞台をつくり、さらには文芸作品を素材にした創作劇の脚本、演出も。流儀やジャンルを超えた若いエネルギーの結集が何をもたらすか。いわゆる古典の舞台の再活性化へ寄せられる期待は大きい。

今年三十五歳。素踊りの可能性を押し広げつつ、勘十郎の挑戦は果てなく続く。

西村彰朗

演劇評論家

1939年大阪市生まれ。同志社大卒。京都新聞で40年記者生活を送り、今は新聞、演劇専門誌に劇評を執筆。歌舞伎学会会員。文化庁芸術祭企画委員、文楽劇場専門委員など歴任。著書に『一方の花一五丁目上村吉弥の生涯』。

12

December 2015

□ オペラ/主催公演

12日(土)、13日(日) 14:00

◆ 春秋座

歌劇「セヴィリアの理髪師」全2幕

● 特集▶ P.03

G. ロッシーニ 作曲(イタリア語原語上演・日本語字幕付き)

【発売中・全席指定】

S席 一般 9500円 友の会 8500円 シニア 9000円

A席 一般 7500円 友の会 6500円 シニア 7000円

学生&ユース席 3000円(座席範囲指定)

※両日共に託児サービスあり(詳しくは劇場HPをご覧ください)

T-C OTS ぴあ e+ 新聞 生協

1

January 2016

□ 伝統芸能/主催公演

30日(土) 14:00 *14時よりプレトークあり

◆ 春秋座

春秋座一能と狂言

● 特集▶ P.01-02

【発売中・全席指定】 S席完売しました。

S席 一般 8000円 友の会 7000円 シニア 7500円

A席 一般 7000円 友の会 6000円 シニア 6500円

学生&ユース席 2500円(座席範囲指定)

※未就学児のご入場はご遠慮ください。

T-C OTS ぴあ 生協

2

February 2016

□ 演劇/主催公演

7日(日) 14:00

◆ 春秋座

演じる高校生

● 特集▶ P.04

【一般・友の会 11月25日(水) 発売・全席指定】

一般 1500円 友の会 1200円 学生&ユース 500円

T-C OTS ぴあ 生協

□ 伝統芸能/主催公演

27日(土) 11:00、15:30

◆ 春秋座

藤間勘十郎 春秋座 花形舞踊公演

● 特集▶ P.04

【一般 12月2日(水)/友の会 12月1日(火) 発売・全席指定】

一般 8500円 友の会 7500円 シニア 8000円

学生&ユース席 3500円(座席範囲指定)

※11時の回は託児サービスあり(詳しくは劇場HPをご覧ください)

T-C OTS ぴあ e+ 新聞 生協

□ 講演・レクチャー

2016年度日本芸能史

15周年記念 日本芸能史の古代・中世と近世

今回は各時代と分野を代表する芸能と芸道の第一人者の実演を中心に配列。実演を通して古代から近世に至る日本芸能史の大道をたどり、日本列島内で誕生、あるいは海外から伝来した多様な芸能・芸道の発展の具体相を明らかにします。

そこから見えてきたものは、神と人の交流の場としての日本の芸能・芸道がそなえる、神中心にとどまりつづける独自性と、人中心に向おうとする普遍性との競合だといえるでしょう。

警蹕(春日若宮おん祭)、御神楽【火焚祭】(伏見稲荷大社)、車人形(八王子車人形・西川古柳座)、乙女文楽(ひとみ座乙女文楽)など ●詳細は劇場HPをご覧ください。

3

March 2016

KYOTO EXPERIMENT 2016 SPRING

□ 舞踏/主催公演

16日(水) 19:00/17日(木) 15:00

◆ 春秋座

大駱駝艦 天賦典式「ムシノホシ」

● 特集▶ P.05

【12月8日(火) 11:00 発売・全席指定】

※17日は託児サービスあり(詳しくは劇場HPをご覧ください)

□ ダンス/主催公演

26日(土) 17:00/27日(日) 14:00 *両日、プレトークあり ◆ 春秋座

ボリス・シャルマツ/ミュゼ・ドウ・ラ・ダンス

● 特集▶ P.05

「喰う」

【12月8日(火) 11:00 発売】 ※パフォーマンスでは客席のご用意はございません。

※開演後入場不可 ※両日共に託児サービスあり(詳しくは劇場HPをご覧ください)

【KYOTO EXPERIMENTの各チケット料金】 当日券は +500円

一般 3500円 ユース・学生・シニア(65歳以上) 3000円

高校生以下 1000円 ※高校生以下は当日券ともに同額

※ペア券・セット券あり

お問合せは KYOTO EXPERIMENT チケットセンターへ tel.075-213-0820

※未就学児のご入場はご遠慮ください。

T-C OTS ぴあ

□ 学生公演

ルサンチカ卒業制作公演 春のめざめ

◆ 春秋座

12月5日(土)/6日(日) 16:00

前売り 800円(当日 1000円) T-C

鶴山クラス授業発表公演

◆ studio21

「お気に召すまま」 ウィリアム・シェイクスピア

12月5日(土) 18:00/6日(日) 13:00

三浦クラス授業発表公演

◆ studio21

「悲劇 ヴラジーミル・マヤコフスキー」

12月中旬、開演日時未定

それはさておき卒業制作公演「悪戯乞ひて」

◆ studio21

12月24日(木) I部 16:00~17:20 受付 II部 18:00/ I部 衣装展示…無料

25日(金) I部 12:00~13:20 受付 II部 14:00 II部 ダンス公演…500円

◎学生公演に関するお問合せ

舞台芸術学科 tel:075-791-8237(平日 9-17時、夜間休日は留守番電話対応)

公開研究会

◆ 春秋座

文部科学省認定 共同利用・共同研究拠点

舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点

1月23日(土)/24日(日) 時間未定

《Showing》03 映像 — 舞台・映画・実験 —

映像作家: 伊藤高志

研究代表者: 横堀応彦(東京藝術大学大学院音楽研究科専門研究員/ドラマトウルク)

1月24日(日) 時間未定

◆ studio 21

「ダンス 2.0」の環境構築を通して今日的課題へと
ダンスをつなぐ試み

パフォーマー: 砂連尾理、塚原悠也、野上絹代

研究代表者: 木村覚(日本女子大学人間社会学部文化学科学科准教授/美学・ダンス研究)

【無料・要事前申込】

会場・詳細は共同利用 <http://www.k-pac.org/kyoten/>

T-C 京都芸術劇場チケットセンター

e+ イープラス <http://eplus.jp>

生協 京都、滋賀各大学生協プレイガイド

OTS 劇場オンラインチケットストア

新聞 京都新聞文化センター(京都新聞社 1F) — TEL.075-256-0007(10-17時※土・日・祝除く)

KBS KBS 京都事業部 — TEL.075-431-8300(10-17時※土・日・祝除く)

*記載のないものについての開場は開演 30 分前

*特に標記のない場合、前売と当日は同じ料金 *ユースは 25 歳以下、シニアは 60 歳以上対象(一部公演を除く) *学生・ユース・シニアは身分証明書提示

募集中!

【京都芸術劇場友の会 会員】

《京都芸術劇場友の会》では、劇場の活動をより知っていただくため、会員の皆様に公演の詳しい情報をいち早くお知らせし、また、チケット割引や先行販売を通じて、少しでも早く劇場をご利用いただけるようサービスを行っております。ご用意できる特典はささやかですが、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

《会員特典》

- ① 情報誌「京都芸術劇場ニュースレター」(年3回)や公演チラシを定期的にお届け!
- ② 京都芸術劇場チケットセンター(窓口・電話・オンラインストア)で会員番号によるチケット予約、1公演お一人様2~4枚(公演により異なる)まで割引料金にて購入可能!(公演により、予約・割引のない場合、窓口・電話のみの対応の場合もございます。)
- ③ 当劇場主催公演など、会員限定の先行販売あり!
- ④ 春秋座、studio21で行われる公開講座、公開シンポジウムなどもご案内!
- ⑤ 10年以上ご継続の会員様はプレミアム会員として、さらにお得な特典が受けられます。

《入会方法》 どちらかの方法をお選びください。【年会費 2000 円/有効期限・入会日より1年間】

1. 劇場チケットセンター窓口にてお申し込み(窓口受付/月~金 10~17時)

2. 郵便振替にてお申し込み

劇場郵便口座へ年会費 2000 円をお振込ください。

郵便局で青色の振込用紙にご記入ください。(振込み手数料別途 100 円程かかります。)

【口座番号】 00970-7-176517 【加入者名】 京都造形芸術大学 京都芸術劇場

【通信欄】 ①友の会 新規入会 ②お名前(フリガナ) ③生年月日 ④ FAX(あれば)

【ご依頼人】 お客様の住所・氏名・電話番号(わかりやすい字ではっきりとご記入ください。)

【オンライン会員】

登録無料! 24 時間ご予約可能! 選べる受取・お支払い方法!
公演情報をメールでお知らせ!

詳しくは、オンラインチケットストア(右記)へアクセス下さい。
(友の会にご入会いただくと、自動的にオンラインに登録いたします。)

—— カフェが新しくなりました! ——

大学のエントランスから劇場までの途中にある、カフェがリニューアルしました。新たなメニューも加わり、さらにスタイリッシュで落ち着いた空間へと生まれ変わりました。観劇の前や休憩にぜひお立ち寄りください。



新メニューのスムージーはベリーベリーとマンゴーの2種類。



人気のホットサンドとスープは小腹がすいた時におすすめです。



平日 10:00-17:00
土日 10:00-14:00

ただし営業時間・休みは大学の行事や授業により変更になります。詳しくは大学インフォメーションもしくはチケットセンターへお問い合わせください。

カーテンコール

今年度最後のニュースレターとなりました。冬の京都は底冷えが厳しいといわれていますが、劇場から歩いていける所にある銀閣寺や哲学の道、詩仙堂や修学院離宮の雪景色は大変美しく、南天や椿の赤、雪の白や常緑樹の緑とのコントラストも目を楽ませてください。観劇と併せて、ぜひ空気の澄みわたった冬の京都を楽しんでください。〔S〕

チケットお問合せ先

京都芸術劇場チケットセンター

tel.075-791-8240

営業: 平日 10:00-17:00・公演開催日

京都造形芸術大学
舞台芸術研究センター

京都芸術劇場 春秋座・studio21

606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

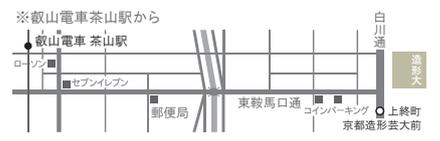
tel.075-791-9207 fax.075-791-9438

URL: <http://www.k-pac.org/>
E-mail: k-pac@kuad.kyoto-art.ac.jp

京都芸術劇場ブログ

<http://www.kyoto-art.ac.jp/blog-theater/>

京都芸術劇場 検索



● JR・近鉄京都駅、京阪三条駅、阪急河原町駅から
京都市バス5号系統「岩倉」行き乗車、
「上終町・京都造形芸大前」下車
(京都駅から約50分、三条駅・河原町駅から約30分)

● 京都市営地下鉄丸太町駅・北大路駅から
京都市バス204号系統銀閣寺行に乗車(約15分)
「上終町・京都造形芸大前」下車

● 京阪電車出町柳駅から
叡山電車に乗り換え、茶山駅下車 徒歩約10分

※駐車場はございませんので、お車・バイクでの
ご来場はお断りします。
※所要時間はあくまで目安です。交通事情により
大きく変動します。

発行/編集

京都造形芸術大学
舞台芸術研究センター

デザイン 吉羽一之(シンプルホープ)

京都芸術劇場ニュースレター
vol.33 発行日—2015年12月1日